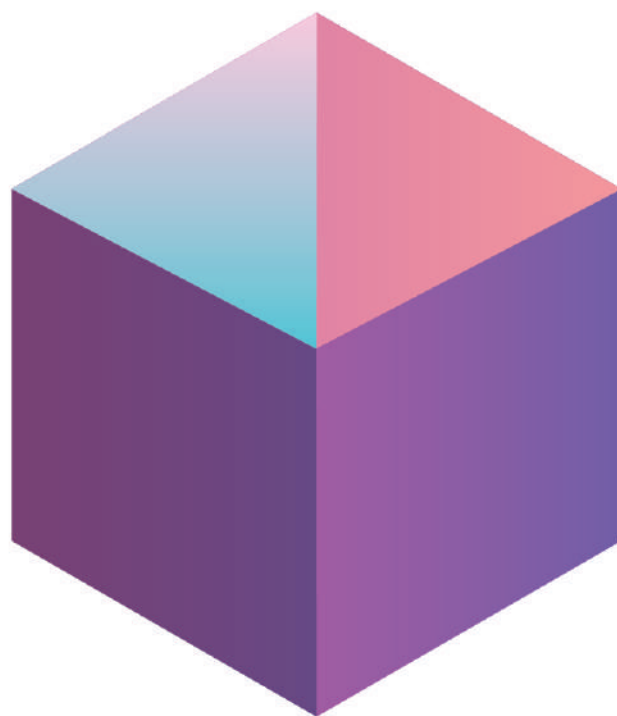
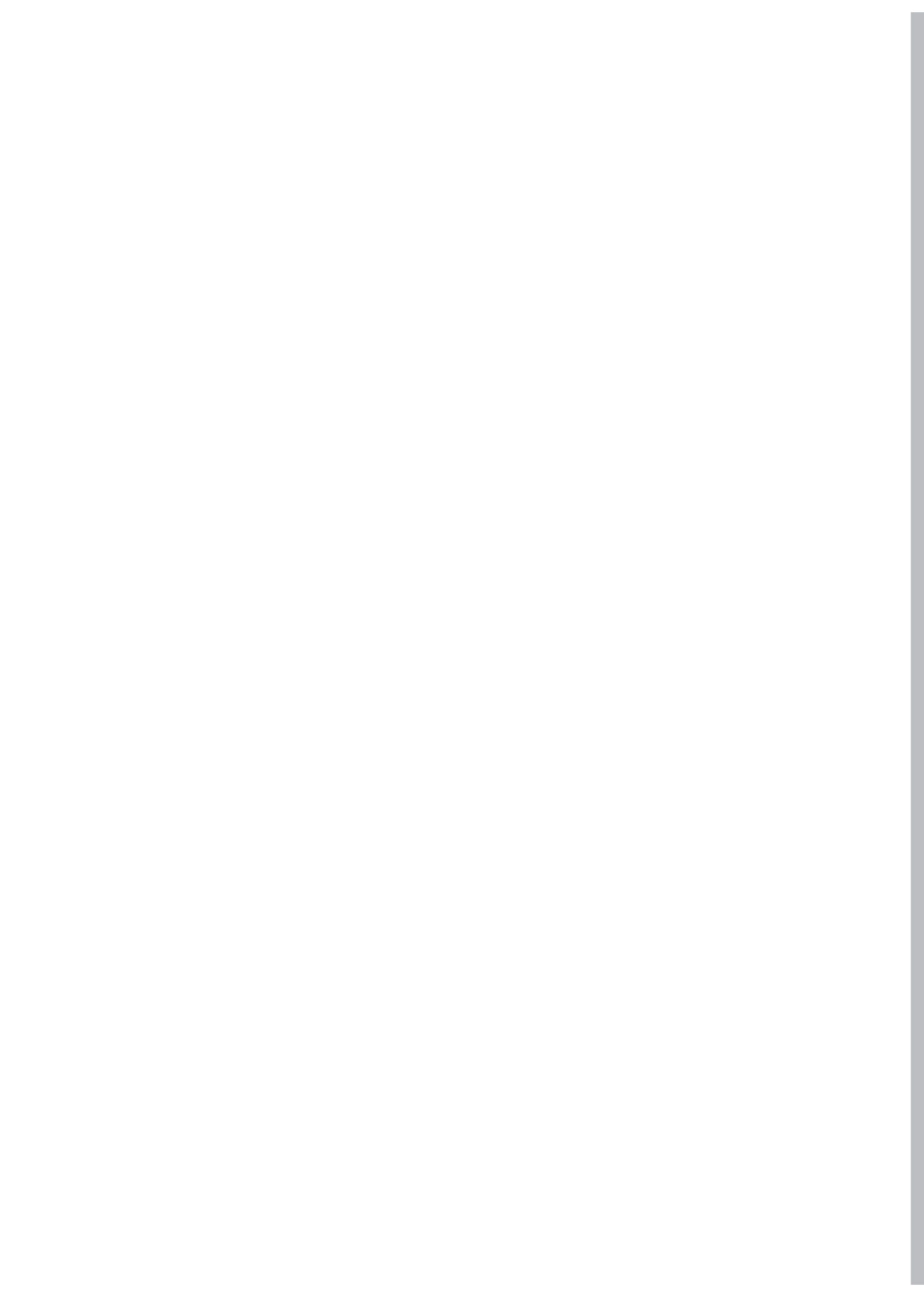


令和3年度  
宮城県NPO等の絆力を活かした  
震災復興支援事業

# 成果報告書



宮城県



**令和3年度**  
**宮城県NPO等の絆力を活かした**  
**震災復興支援事業一覧**

実施主体名	事業名	ページ
特定非営利活動法人 移動支援Rera	暮らしの足をなくさない助け合い送迎事業	1
一般社団法人 みちのさき	南三陸町（社協）との協働による心の癒しを通じた地域支え合い事業	3
一般社団法人 フリースペースつなぎ	不登校・引きこもりの子ども・若者の居場所づくり	5
特定非営利活動法人 虹色たんぼぼ	2021年地域のお節介文化を醸成する、持続可能な地域コミュニティ構築事業	7
特定非営利活動法人 キッズドア	教育力向上による若年人口流出防止と復興人材育成事業	9
特定非営利活動法人 応援のしっぽ	働きたい女性と地域社会とのつながりを作る、コミュニティ形成支援及び仕事創出事業	11
一般社団法人 プレーワーカーズ	子ども支援団体・機関の絆力を強化し、“ONE TEAM”で県全域の子どもを元気にする取り組み	13
一般社団法人 ReRoots	若林区の地域おこしに向けた農業と農村コミュニティ再生事業	15
特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会	地域を支える復興支援団体の継続的成長を引き出すファンドレイジング力向上プログラム	17

**令和3年度**  
**宮城県NPO等の絆力を活かした**  
**震災復興支援事業（マッチング・交流事業）**

交流会実施概要	19
石巻地域交流会	20
気仙沼・南三陸地域交流会	20

## 団体名

特定非営利活動法人移動支援Rera

## 事業名

暮らしの足をなくさない助け合い送迎事業

## 実施地域

石巻市、東松島市、女川町

● 住所：宮城県石巻市大街道東4丁目2-10クレンビル1号館2階 ● 電話：0225-98-5667

● メール：info@npo-rera.org ● HP：http://www.npo-rera.org

### 目的・背景

- ・被災地の住民の心に寄り添いながら、コロナ禍でも安全安心な移動手段の提供を助け合いの送迎により確保し、いつまでも安心して暮らしていける地域を創ることを目的とする。
- ・石巻圏域では被災の影響による移動の課題と潜在的な地域における移動の課題が今なお大きな課題として存在している。
- ・被災により移動手段を失った住民、免許の返納や、心身の健康を崩すなど、住環境が変わり家族や地域の助け合いが頼めなくなってしまった住民がいる。また、もともと進んでいた地域の高齢化がさらに加速し、助け合いの担い手だった住民自身が高齢で車に乗れなくなる等の状況も増加している。
- ・現在は、被災した住民の多くが復興住宅・自宅・家族との同居など住環境が変化し、一定期間を過ぎてきたところであるが、高齢者、障害者、持病のある住民、孤立・困窮住民などにとっては、体調の悪化や精神疾患、更なる孤立、新しい家族関係の問題などを招いており、仮設住宅等に住んでいた頃よりも実態・課題が見えにくくなっている危険な状況がある。
- ・当団体は震災直後より移動困難者への乗降介助付き送迎を行ってきた。累積送迎人数は18万人以上で、感染防止対策を徹底しながら現在も毎日人工透析等の通院患者など必要な送迎を継続している。

### 内容

#### 1. 被災地の住民の心に寄り添いながら、移動困難な住民のための助け合い送迎活動

- ・障害や高齢、心身の不調、孤立、経済困窮等により、命と生活に必須の移動手段を持たない被災地域住民を対象とした、住民互助のボランティア送迎活動を行った。
- ・福祉車両6台、普通車1台の計7台を使用し送迎を実施、感染防止対策実施済。
- ・道路運送法上「登録を要しない」ガソリン代実費程度のみを利用者から受け取る輸送形態で活動を継続。福祉有償運送の登録については運行形態を見極めつつ2022年9月の実施を目指す。
- ・活動の担い手は地域住民であり、より多くの住民参加を促していく。

#### 2. 外出できない住民が心豊かに暮らすための「付き添いつきお出かけ送迎」

- ・通院や買い物等、生きるために必要な移動だけで手いっぱいな住民は、生活を楽しく送るための「お出かけ」の手段も持っておらず「外出する目的がない」「一緒に出かける人がいない」「体力がない」「体調が悪い」



という状況にある。このような一人ではおでかけの機会を持つことができない住民のために、付き添いつきのお出かけ送迎を実施した。

### 3. 住民の暮らしを支える「暮らしのお手伝い」

- ・移動手段を持たない住民は、移動だけでなく生活全般にさまざまな困難を抱えている。ヘルパーなどの制度では対応しきれない窓拭き、草取り、など制度の対応の難しい困りごとに対応した。

### 4. 地域の移動の担い手発掘

- ・送迎ボランティア募集を紙面等で実施
- ・送迎講習会の受講

## 成果

- ・直接的には、生活に密接な買い物や通院等の必要な移動手段を提供することによって、住民は健康で人間らしい毎日を送ることができている。また、被災による影響に加え新型コロナウイルス感染症の影響下で、心身衰弱に影響を与える可能性が高い高齢者や障害者、病人などが、多重の打撃を無事に乗り切ることができている。
- ・長引く外出自粛で楽しみのための外出ができない住民に、安心安全な対策を徹底したお出かけイベントに参加してもらうことで、日々の暮らしに楽しみが生まれ、心豊かに過ごしている。
- ・草取りや窓拭き等、生活上の小さな不自由を解消することで、困難を抱える被災住民の生活の質が向上し、心穏やかに質の良い生活を送ることができている。
- ・事業の担い手発掘を行う事でさまざまな地域住民が参加し、元気なシニアや子育て世代、引きこもりなどの社会参加の場ができた。
- ・間接的には、免許返納問題の解決の一助となり、交通安全に寄与している。また、家族送迎の負担軽減による家族関係の悪化が緩和されている。



## 課題・計画

- ・地域住民から「震災復興とは関係なく地域で活動を続けてほしい」と要望されることも多い。一方で、現状では引き受けきれない数の移動困難者がいることも事実である。
- ・補助金や助成金が減少していく中で、事業収入の割合を増やし、活動資金における復興財源の補助金や助成金の割合を縮小させていく。
- ・クラウドファンディング等を通してより多くの支持者獲得に向け努力する。
- ・自家用有償運送（福祉有償運送）開始後、規定通りの運賃設定での送迎を実施する一方で、経済的理由やその他の理由で取りこぼされる移動困難者を掬い上げ、誰もが必要な移動を諦めない地域づくりを目指していく。
- ・事業全体の統括と推進のため12月に新たにスタッフ1人を増員し、多様な移動ニーズに備えるため団体の活動を強化していく。
- ・地域支援の推進と、地域とともに移動を考えていくこと、そのサポートにも取り組む。

**団体名** 一般社団法人みちのさき

**事業名** 南三陸町(社協)との協働による心の癒しを通じた地域支え合い事業

**実施地域** 南三陸町

● 住所：宮城県登米市迫町佐沼字大綱358-5

● 電話：090-2848-8878

● メール：matubara8787@yahoo.co.jp

● HP：なし

## 目的・背景

南三陸町にて新たに災害公営住宅に居住する住民には課題が多く、閉め切られた団地内の住居での慣れない生活や、近隣住民とのコミュニティ不足による引きこもり、会話のない孤独な一人暮らしによる生きがいの喪失等、安心できる住まいの復興は成し遂げたものの、安らぎや生きがいがあり幸せを実感できる生活には至っていない。

南三陸町の住民同士の心の絆を深め、支え合い、充実した生活のもと本当の心の復興を迎えるためには、日々実感出来る心の癒しや心の彩りが感じられる取り組みを多くの住民と共に実施・共有していく必要がある。また、南三陸町社会福祉協議会との協働のもと10年先を見据えた継続支援活動へのきっかけの取り組みとし、地域住民による自助、共助、公助のバランスの取れた地域づくりのための一助とする。

## 内容

### 1. 心の癒しワークショップを通じた担い手育成事業

昨年度地域住民の方々に大変好評を得た心の癒しワークショップは、新型コロナウイルス対策を徹底し安心して参加いただける環境のもと実施した。男性に大変好評だったDIYワークや、男女ともに参加者の多い多肉植物の植栽等は、熱中症対策も踏まえた上で密を避けて屋外にて行った。ワークショップ講師は南三陸町の方に依頼し、持続的な事業となるように担い手の育成も図った。



### 2. 安心出来る暮らしの為の心を通じた地域支え合い事業

各自自宅で行える手仕事を通じて心の癒しを得られ、誰かのために役に立てるという張り合いのある暮らしを続けていくために、昨年度行ったヨーヨーキルトのペナント作りを今年度も多くの地域住民の協力のもと実施出来た。完成したペナントは南三陸町の伊里前小学校と戸倉小学校に寄贈し、子供達との絆の懸け橋として各種小学校行事にて展示いただいた。また、自宅での孤立感の抑制のため、塗り絵アート作品作りにも新たに取り組んだ。日々の暮らしの安心感を確保するため



に地域住民の協力のもと安心フラッグを作成し、昨今多発している地震発生時等にそれぞれの住まいの玄関先に掲げ、自らの安否を示し地域防災の一助とする事が出来た。

## 成果

### 1. 心の癒しワークショップを通じた担い手育成事業

- ・社協と協働した事により、普段は出歩かない地域住民に直接参加を促すことが出来た。
- ・南三陸町の住民にワークショップの講師を依頼したことで新たな講師が育成され、自らワークショップを実施するスキルも取得できた。
- ・ワークショップ終了後も参加した住民同士の交流が図られ、災害公営住宅間の行き来も活発になった。
- ・DIY ワークや多肉植物の植え込みなど、ワークショップで学んだことを自宅で再度楽しめるメニューにした事により、参加した住民の生活に彩りが生まれた。



### 2. 安心出来る暮らしの為に心を通じた地域支え合い事業

- ・ヨーヨーキルトのペナント作りでは 50 名を超える地域住民に協力いただき、1 台 2500 ピースのキルトを完成することが出来、住民に達成感を感じていただけた。
- ・小学生への想いがこもったキルトづくりは、他世代をつなぐツールとして協力いただいた住民の生きがいとなっている。
- ・コロナ禍にて外出を控える住民に気軽に参加していただける塗り絵アート作りは大変好評で、自宅にて家族で作品作りをした方も多数いて家族をつなぐ役割を果たした。
- ・安心フラッグの運用については数回地域住民と協議し、自らが地域防災にかかわる必要性を大いに理解していただけた。

## 課題・計画

- ・ワークショップでは災害公営住宅ごとに参加者にばらつきがあり、今後更なる声掛けや PR を行う必要がある。
- ・各種ワークやイベントに参加したくても、車を所有していなく参加できない住民もいたようで、今後は送迎なども行う必要性を感じた。
- ・今回のワークで講師をお願いした方々の更なる活躍の場を新たに作っていく必要がある。
- ・弊法人が行っている取り組みを南三陸町の住民自らが担い、行政や社協との協働を進める事により地域住民自らの持続的な街づくりにつなげていく。
- ・住民自ら心を癒す手法を得ることにより、生活に張り合いが生まれ、生きがいにつながっていく。

## 団体名

一般社団法人フリースペースつなぎ

## 事業名

不登校・引きこもりの子ども・若者の居場所づくり

## 実施地域

気仙沼市

● 住所：宮城県気仙沼市赤岩泥の木19-1

● 電話：0226-28-9181

● メール：space.tsunagi@gmail.com

● HP：https://space-tsunagi.com

### 目的・背景

震災から10年が経ち、ハード面での復興は進んできたが、不登校や不登校経験のある若者の数は増え続けている。2018年に常設の居場所「つなぎハウス」ができ週5日の活動になったことに伴い、学校・教育委員会との連携が進み、不登校支援は一定程度進んできたといえる。しかしながら、社会では不登校・ひきこもりがちな子ども・若者に対して社会の偏見は根強い面があり、子ども・若者自身が自分を責め、自己肯定感が低くなる傾向がある。気仙沼では若者支援に特化した若者サポートステーションなどの団体は存在しておらず、不登校経験のある若者がそのままひきこもりへとつながってしまうケースもある。また不登校やひきこもりがちな若者にとっては、家族以外の人と触れ合う機会が少なくなり、職業・働き方のイメージが乏しくなりがちである。

このような課題から、まずはフリースペースが若者にとって安心できる居場所となるよう環境を整える。そして、家族以外の地域の多様な人とのふれあいの機会をもち、子ども・若者が自分の将来像を描く上で多様な生き方や学び方を知るきっかけとする。また一方で、地域の大人にも、フリースペースの子ども・若者と共に語り合い、体験することで不登校や若者の理解を深め、多様な人々が共に生きる地域・ネットワークづくりを目指していきたいと考えた。

### 内容

#### 1. 「多様な学び方・生き方を支える100人プロジェクト」の策定

地域の様々な職種の方たちに「多様な学び方・生き方を支える100人プロジェクト」に登録してもらい、身近にいる大人として保護者や地域で働く様々な方々に一人一人の専門性を活かし、子ども・若者のニーズに合わせた講座を行うと同時に、当団体の活動を支えるサポーターとなってもらう。

地元の企業の方や、個人事業主の方などを中心に講師となって頂き、会社見学、実際の仕事の様子を見学・体験として一緒に作業をするなど、「見る・聞く・触る」といった五感を使いながら、「仕事」「人」との触れ合いを図った。

#### 2. 若者の中間就労およびスキルアップ

100人プロジェクトに登録した若者の興味・関心に合わせて様々な分野で技術や知識の習得を目指す。例えば、フリースペース内の事務・経理などの一部を中間就労体験の機会として設





けたり、部屋の増築で塗装など興味のある若者にその仕事を任せたりするなど、機会を増やした。またその際には経理や建築など専門性のある人を講師として招き、知識・技術を伝えてもらうようにした。

### 3. 若者が落ち着いて過ごせる場の設定

ふだんの活動の場においては、フリースペース内で安心できる雰囲気を作り、自由に自分の思ったことを話せる環境を整えた。若者がどんなことに興味・関心があるのかニーズを拾い上げ、専門性のある地域の人とのマッチングを図った。また「つなぎハウス」が手狭になってきたことから、隣接する牛小屋を改修し空間を広げ、100人プロジェクトの講座に使用したり、若者が自分の興味ある活動ができるスペースとして活用した。

## 成果

100人プロジェクトを軸とした活動の中で多様な職種の14名の講師により、計21回の講座を開催した。参加した子ども・若者たちは講師のそれぞれの学生時代の話から現在の仕事の話聞くことで、自分の将来について考えるきっかけとなった。

興味のある講師に対して熱心に質問をしている子ども・若者の姿が見られた。一部の若者については、就労への意識が高まりハローワークへの登録を考える声が出るようになった。

地域内に新たなネットワークを構築することにもつながり、これまで接点のなかった講師や団体などと一緒に活動することで、子ども・若者のサポートが行える関係人口を増やすことができた。



## 課題・計画

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり活動に制限があったが、今後は講師の下で就労体験を行うなど、働くことを考えたり専門的なスキルの習得につなげられる機会をつくっていききたい。加えて、現在のネットワークの活用、オンラインによる活動を行うことで、子ども・若者の住んでいる地域の大人だけではなく、遠方で活動している大人とつながることで、子ども・若者のニーズにあわせた活動を行い、より社会的な自立への意欲、自主性をより高められるようにしていきたい。

## 団体名

特定非営利活動法人虹色たんぽぽ

## 事業名

2021年地域のお節介文化を醸成する、持続可能な地域  
コミュニティ構築事業

## 実施地域

亘理町、山元町、岩沼市

● 住所：宮城県亘理郡亘理町吉田字原306-16

● 電話：0223-36-7881

● メール：watarinijirotanpopo@gmail.com

● HP：https://watari-tanpopo.org

## 目的・ 背景

2019年の法人設立後、地域住民が抱える課題を解決できる継続的な仕組みを構築運営するため活動を行っている。その中で、皆が集まれる場所を作る取組として、サロンの開催を開始。また、保健師・看護師・助産師による健康・育児相談などを随時行ってきた。そして被災者の話を聞くことで精神的な孤立から助け上げることが必要であると感じ、被災者一人一人と向き合う活動として「聞き書き」をはじめた。

しかしコロナ禍で人々の交流が制限され、関わり・関心が薄れ、再び皆が孤立しつつある。この状況を解決すべく、当法人が主体となり、感染防止対策を考慮した環境にて地域住民が交流し、自主性を培っていけるような活動を行う。

## 内容

### 1. 地域住民の心のケア、育児、健康相談事業

・聞き書き人のいる町亘理

聞き書き講座 12月、3月の年2回開催  
(講座～聞き書き実践～製本まで) 聞き書き活動(個別、みんなの保健室内で。随時)

・パパママ学級、ベビーマッサージ、健康相談、生活相談

対面相談は、少人数制で個別対応。月に2～3組。その他、電話、LINE、Zoomでも相談を実施。



### 2. サロン開催・地域コミュニティ形成事業

・みんなの保健室、おらほの保健室(完全事前予約制)

NPOサロンにて月2～3回開催。赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年齢層の方が、1回あたり10～15名程度参加。看護師、助産師、カウンセラー等がボランティアとして参加し、実家のように寛げる雰囲気の中で、何気ない日常会話の中から個々の課題を汲み取り、対応を行った。皆で楽しめるイベントやセミナーも開催した。



・おばあちゃんの手仕事講座

NPOサロンで月1回開催。地域のお年寄りから若い世代へ、知恵・手仕事を伝える場を提供。

被災した巨理のお年寄りが先生となり、しそ巻き、らっきょう漬け、梅仕事、干し芋作り、はらこ飯づくり等を教えた。

### 3. 広報活動

・FM あおぞら「コミュニティナースの時間ですよ」（月1回放送）。地元FM局から地域に向けて情報発信を行った。コミュニティナースとして健康の啓蒙活動や、健康・育児のアドバイスをし、聞き書き等各種イベントの紹介も行った。

## 成果

聞き書き活動では、被災者一人一人と向き合うことが出来た。震災の経験を乗り越え前へ進んでいる人、進んでいるが悲しみの深さは変わらないと話す人、まだまだ現状維持の人など様々であり、個別の対応が求められている。聞き書き活動を行う中で、10年が経過しても震災の経験は色あせることなく心に刻まれているということが分かった。話すことで傷ついた心を癒すだけでなく、被災者自身が自らの境遇を見つめ直すきっかけにもなり、「話せる場所があって良かった」と感謝の言葉をいただいた。また、聞き書き本を読んだ家族が、改めて本人の心の内を知るきっかけにもなっている。

みんなの保健室、おらほの保健室は、月2～3回のペースで開催中。赤ちゃんからお年寄りまで参加者の年齢層は広く、様々な相談が寄せられている。医療従事者のボランティア（助産師、保健師、看護師、薬剤師、栄養士、介護士、音楽療法士、カウンセラー）が話を聴き対応した。「話が出来て楽しい」「一人じゃないんだ」「気持ちが楽になった」「子育ての助けになった」「友達が出来た」「楽しい時間を過ごせた」との声があった。



## 課題・計画

地域住民のケア、聞き書き活動を軸に、今後も活動を継続していく。

聞き書き活動においては、聞き書きした内容をしっかり「本にする」ことが、震災の記憶を歴史的な財産にすることになるということがわかった。主催する養成講座への参加の他に「傾聴のやり方」「製本のやり方」などをしっかり教え、個人でもグループでも活動できる聞き書き人を育てていく必要があると感じた。また、みんなの保健室、おらほの保健室では、継続的に運営可能な地域コミュニティを構築するためには、感染症対策を講じ、安心して開催できる仕組みを作ることが大事であると感じた。

**団体名** 特定非営利活動法人キッズドア

**事業名** 教育力向上による若年人口流出防止と復興人材育成事業

**実施地域** 南三陸町

● 住所：宮城県仙台市宮城野区榴岡3丁目2-5サンライズ仙台2階 ● 電話：022-354-1157

● メール：tohoku@kidsdoor.net ● HP：https://kidsdoor-fukko.net

## 目的・背景

南三陸町では、少子高齢化と若年層の人口流出が進み、小中学校の統廃合も進んでいる。「若年層の人口流出」が課題であり、町民へのアンケートでは「子どもの教育の充実」を求める子育て世帯は多い。令和2年12月に弊会で実施した「新みやぎ模試」の結果を比較したところ、タダゼミ南三陸（南三陸町内の中学3年生を対象とした学習会）の数学と英語の2科目の平均点は県標準平均点を22点下回り、タダゼミ仙台（仙台市内の生活困窮家庭の中学3年生を対象とした学習会）の2科目の平均点よりも10点下回った。基礎学力が不足した状態では希望進路の実現で大きな課題となり得る。また、町内で十分な教育を受けられる機会がないという認識が広まれば、町外への人口流出はより加速する恐れがある。教育力の向上という共通の目的のもと、町民・学校・行政・NPOが協働することで、従来のつながりだけではない新しい人と人とのつながりも生まれる。

本事業では、町内の2つの中学校（志津川中学校・歌津中学校）の生徒を対象とした無料学習会を定期的に開催し、子ども達の基礎学力・学習意欲・将来展望の向上やロールモデルの獲得を目的とする。また、子ども達の希望進路実現には保護者の理解や応援が必要となるため、保護者にも教育や進学について学びの場を提供し、子ども達の良き応援者となってもらう。

## 内容

### ・南三陸オンライン学習会（中学3年生を対象とした無料オンライン学習会）

内容：高校入試に向けた英語・数学の学習支援

期間：2021年7月～2021年9月

毎週水曜日 19時～20時半

### ・タダゼミ南三陸（中学3年生を対象とした無料学習会）

内容：高校入試に向けた英語・数学の学習支援、ミニトーク、新みやぎ模試、二者面談、作文対策等

会場：南三陸町生涯学習センター

期間：2021年10月～2022年2月

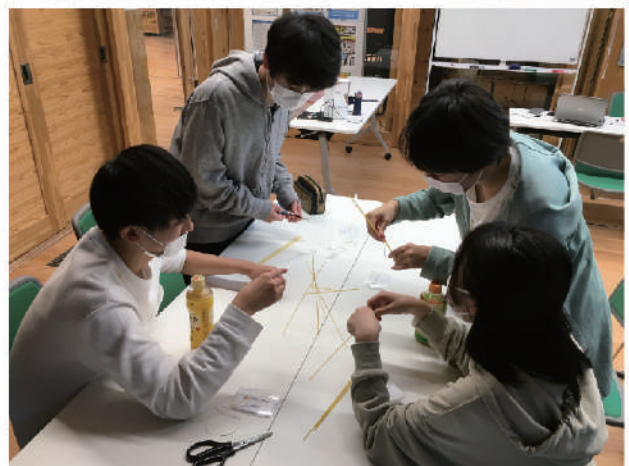
毎週土曜日 13時～17時

全19回実施予定

登録生徒数：14名

### ・English Drive 南三陸（中学1・2年生を対象とした無料英語学習会）

内容：文法と暗記量の多さから英語嫌いになりがちな中学1～2年生を対象に、英語を楽しく学びながら4技能を実践的に使うためのアクティビティ（ミニ



ゲーム、カリグラフィー、映像作品による異文化理解など)を実施。

会場：南三陸町生涯学習センター

期間：2021年10月～2022年2月 隔週土曜日14時～16時 全10回実施予定

登録生徒数：3名

・保護者ガイダンス「子どものやる気アップ～入試とその先を考えた親の声かけ～」

過去の保護者アンケートで、教育や進学に関する情報収集源は学校のみという家庭が多いことが分かった。講師には、仙台市内で12教室を展開する個別教室のアップル代表取締役 畠山明氏を招き、「受験生の子どもとのかかわり方」「自己肯定感」をテーマに「家庭での声かけ」「子どものやる気アップにつながる会話」について座談会形式でガイダンスを開催。

会場：南三陸町生涯学習センター 第一研修室

日時：2021年11月27日(土)13:30～15:00

参加者：南三陸町内在住の中学生の子どもを持つ保護者9名、志津川中学校校長、計10名

## 成果

・南三陸オンライン学習会

実施回数9回、平均出席率100%、延べ参加人数25名

・タダゼミ南三陸

実施回数14回、平均出席率92.4%、延べ参加人数171名

※1/22(土)現在

・English Drive 南三陸

実施回数7回、平均出席率76.2%、延べ参加人数16名

※1/22(土)現在

「NPO等による復興・被災者支援の取り組みに関する満足度についてのアンケート」において、上記2つの学習会に登録している14名の保護者から回答を得た。6つの質問項目のうち「改善した」「どちらかといえば改善した」と回答した保護者の割合は下記の通りであった。

「子どもが落ち着いた、明るくなった」	…83.30%
「子どもの学習環境、生活環境の改善につながった」	…92.86%
「子ども同士の交流が増えた」	…64.29%
「親の負担が軽減された」	…92.86%
「親子の絆が深まった」	…57.14%
「孤立感(さびしさ)や不安感が軽減された」	…53.83%



## 課題・計画

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により対面での学習会スタートは当初の計画より1か月後ろ倒しとなった。そのため事前に想定していたよりも2回減の実施回数となる見込み。

2022年1月現在、オミクロン株の感染拡大により再び開催を危ぶまれる状況になりつつあり、場合によってはオンライン学習への切り替えができるよう準備している。

今後ますます子どもの数が減少し過疎化していく地方において、学校教育以外の学びの場をどのように補充するか、都市部との格差をどのように補填するか。まさに必要なところに必要な支援が届くよう今後も活動していきたい。

## 団体名

特定非営利活動法人応援のしっぽ

## 事業名

働きたい女性と地域社会とのつながりを作る、  
コミュニティ形成支援及び仕事創出事業

## 実施地域

石巻市、東松島市

● 住所：宮城県石巻市大街道北2-12-2

● 電話：0225-24-9258

● メール：info@oennoshippo.org

● HP：http://oennoshippo.org

## 目的・ 背景

幼児や障害者を抱えた一人親世帯に加え、子育て中の母親達の融通のきく仕事は少ない。また要介護の親との2人同居世帯など、働きたくても定時就労できない人たちが増加している上、新型コロナウイルスの影響で外へ出るきっかけがますます減り、精神的に孤立している状態が続いている。

一方、同じく皆で集まる機会がなく、今後何らかのコミュニケーションを図っていきたいと考える地域共同体もあるが、住民の意識にも左右され、何をどうしていくか試行錯誤していく行動力・資金力に欠けるところが多い。

そんな中、社会参加のため働きたい女性が細々とでも継続可能な仕事を作ることができれば、胸を張って外へ出ていくきっかけを提供することができる。また、そういった方たちのフォローを行うことで、仕事を通してできあがる新しいコミュニティの形成が期待でき、さらにはそのコミュニティが他の地域コミュニティに関わることで、お互いに活性化していくことも期待できる。

働きたい女性や集まりたい地域住民の「やってみたい」という要望に、仕事の場を提供していくことで社会的孤立化を防ぎ、いきいきと活動できる地域社会を目指すことを目的とする。何よりも、最終的には補助金なしで継続していけるような仕組みづくりを目指す。

## 内容

### 1. 製作者コミュニティの形成支援

募集から登録、技術審査や講習会を経て、登録メンバーネットワークを作り、サークル的なコミュニティにつなげていく。

- ・手仕事制作メンバー 登録 155名
- ・手仕事制作メンバー 実働 133名

### 2. 製作者コミュニティの技術講習会開催などによる技術レベルアップ

製品化できる一定の技術レベルを担保するために、仕事に応じて技術講習会を開催する。

- ・技術講習会 22回



### 3. 仕事創出と受注体制の構築

当法人や協力団体の今までの支援ネットワークをもとに、仕事を創出していく。

- ・ 園児指定制作物オーダーサイト「はじめてのしっぽ」再オープン（期間限定サイト）  
URL <http://www.hajimetenoshippo.org/>
- ・ ノベルティグッズ、園児制作物の制作受注
- ・ 登録メンバー総売上 1,705,200 円  
(2021年8月～2022年1月)

## 成果

子供の預け先から呼び出しがあったり、施設や病院への送迎など介護であったり、働く時間を満足に取れず、外出もままならない方たちがいる。そういった方たちへ、ミシン、編み物など、できる範囲のことをNPOが提供することで、安心して参加してもらい、また仲間と交流することで、社会的孤立化を防いでいく提案ができた。さまざまなイベントやサークル活動などへ参加する心理的抵抗は高いが、金銭獲得の一手段としての社会参加やコミュニティ参加は必要であるがゆえに、心理的負担が少ない中で仲間を得ることができた。

また、社会的に孤立する方たちの特徴として、優しく責任感が強い方向性があるように感じられることから、そういった方たちは、一人外に出て気晴らしをすることへの罪悪感があり、コロナ禍も追い打ちをかけて外出に抵抗を持っていることが分かった。所得のためという自分や周囲への理由付けがあって、ようやく外出できたという方もいて、一歩踏み出すためのきっかけとなっているようだ。3か月ぶりに笑ったという方もいた。



## 課題・計画

当初予定していた交流会などはコロナ禍で中止となった。打ち合わせならともかく、交流となると、参加者の年齢層も様々であり、参加者同士のデジタルコミュニケーションは難しいと言わざるを得ないため、新型コロナウイルスの動向に左右された。また、事業参加者の交流については、家族的、経済的問題を抱えている方が多いために、無理なく長い目で進めていく必要があった。

課題として、現在ある仕事については季節的な繁忙があり、通年でできるような仕事を作る必要性を感じている。一般的な営利組織のように事業を拡大していくと、これまで通りの内職レベルの賃金しか発生しないようになるため、意味があまりない。NPOとしての創意工夫を凝らすことを常に考えていかなければならない。

## 団体名

一般社団法人プレーワーカーズ

## 事業名

子ども支援団体・機関の絆力を強化し、“ONE TEAM”で  
県全域の子どもを元気にする取り組み

## 実施地域

気仙沼市、名取市、県全域

● 住所：宮城県名取市高館熊野堂字飛鳥中3

● 電話：022-397-7507

● メール：info@playworkers.org

● HP：http://playworkers.org

## 目的・ 背景

震災による影響は、震災後に生まれた子どもであっても、家庭環境の変化によるところが大きく、継続した子どもの心のケアを行うためには、地域の支援団体が主体となることが重要である。しかし、地域には「ノウハウが体系化されていない」「質が伴わない」「他地域とのネットワークがない」「ネットワークを構築する機会やコーディネーターがない」など、課題が多い。上記の背景を踏まえ、以下の3つを目的とし、事業を実施した。

- ・被災により、家庭環境が変化し、ストレスを抱えている子どもたちの心のケア
- ・各地区の子ども・子育て支援団体が自立し、互いに支え合えるネットワーク構築
- ・これまで行ってきた「子どもの心のケア」活動をノウハウとしてまとめ、提供

## 内容

### 1. 避難してきた子どもと親子の心のケアを目的とした拠点運営

気仙沼市田尻沢（県北）では「プレーパークけんぬま」、名取市下増田（県南）では「子どもの居場所〇〇」と名付けた遊び場、居場所づくりを行った。活動内容は、一軒家の庭を開放し、子どもも保護者も自由にのんびり過ごす場の提供で、乳幼児親子から小学生・中学生を中心に誰でも無料で参加することができる。特別なプログラムはないが、水遊び・基地づくり・たき火での調理などそれぞれが自由に活動している。



### 2. “子ども”“親子”の支援をしている団体へのインタビュー調査・冊子づくり

子ども・子育て支援団体に所属している方へインタビューを実施し、冊子にまとめ県内の団体、行政組織等へ500部ほど配布する予定（3月中旬ごろ完成）。昨年度作成した第一弾のインタビュー冊子が大変好評だったため、第二弾を作成中。

また、インタビュー及び冊子の制作を通じて、当法人が県内の子ども・子育て団体のつなぎ役となっている。

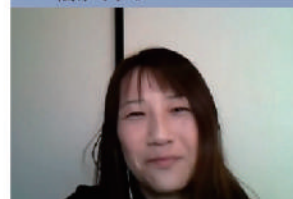
#### プレーワーカーズ 廣川和紀

プレーパークと呼ばれる子どもと地域と共につくる屋外の遊び場づくりを広げている



#### コミュニティ広場ふぁみりあ 佐藤絵里さん

障がいのある子どもを子育て中の家族の交流場として、気仙沼で活動中





### 3. 子ども・子育て学習会・座談会を開催

下記の日程で学習会・座談会を実施した。学習会では昨年度のインタビュー団体の方を講師として招き、学びの場及び交流の場を設けた。宮城県プレーパーク座談会は震災後初めての企画で、名取市の「子どもの居場所〇〇」に30名が集まった。

2021年

10月16日 石巻の実践者に学ぶ会

10月29日 宮城県プレーパーク座談会

10月30日 宮城県プレーパーク座談会

11月13日 オンライン対談「支え合う子育て」

2022年

1月28日 オンライン勉強会 子どもの「やってみたい!」を実現させる仕組みづくり

### 4. 「絆力を育む地域コミュニティづくり」シンポジウムの開催

2022年2月23日、名取市文化会館小ホールにて、子どもと地域、遊びと健康に長年関わってきたパネリストを招き、参加型討論会形式のシンポジウム「宮城の子どもの外遊び環境を変える」を開催予定。会場参加だけでなく、zoomによるオンライン配信も同時に行う予定で、参加者は現地・オンライン合わせて50名ほどを見込んでいます。

## 成果

- ・20団体がインタビューに協力してくれ、座談会・勉強会では64名の参加を得た。
- ・プレーパーク座談会は震災後初の試みであり、県内の多くの団体が参加し、30名が交流を深めた。
- ・オンライン講座では、これから子どもの遊び場づくりの活動を始めたいという人ともつながりができた。
- ・昨年度作成した冊子をきっかけとして、気仙沼と石巻の実践者が交流する機会が生まれた。気仙沼では昨年度居場所づくりネットワークが立ち上がったが、事実上石巻の団体の方が先にネットワーク組織を形成し、行政との協働についても進んでいる。そのため、石巻の実践者の方を講師として招き、気仙沼の団体が彼らから学ぶという形にした。当法人は、そのコーディネイト役を担った（石巻の実践者に学ぶ会）。
- ・2022年2月23日開催のシンポジウムは、オンラインハイブリッド型にすることで、県内の多くの方とノウハウ交換をする機会になる。また、事業名でもある県全域の子ども支援団体“ONE TEAM”を行うためにも、「外遊び環境を変える!」という強いメッセージと共に議論する機会を設けた。実施はこれからであるが、すでに申し込みも多数入っているので、議論が白熱することと思われる。



## 課題・計画

県内の子ども・子育て団体にインタビューする中で、「外遊び」に関する困りごとが多いと感じた。具体的には、「外遊びに関する知識がない」「プレイワーカーがいなくてできないと思っている」「遊びを通じて子どもに関わる人材の育成ができていない」ということなどである。

子どもの居場所、子どもの食、子どもの学び、子どもの育ちの源流には「遊び」が流れているので、それを支えようとしている活動団体からも遊びの重要性が聞かれるということは、事態が深刻化しているということに他ならない。

次年度以降は、プレーパーク活動や、キャンプ、職員研修などを通して各団体と連携する動きも行っていきたい。

**団体名****一般社団法人ReRoots****事業名****若林区の地域おこしに向けた農業と  
農村コミュニティ再生事業****実施地域****仙台市若林区沿岸部**

● 住所：宮城県仙台市若林区荒浜字今泉59-3

● 電話：022-762-8211

● メール：reroots311@yahoo.co.jp

● HP：https://reroots.nomaki.jp

**目的・  
背景**

仙台市沿岸部は東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた。農地や農機具は流され営農再開が困難となり、行政政策により大規模化・法人化が進められ農業復興は進んだが、農家の平均年齢は67歳を超え後継者不足が大きな問題となっている。さらに六郷東部地区は震災前後で500世帯から200世帯まで減少し、高齢化率が40%を超える地区があり、過疎化・高齢化が急速に進行している。震災によって農村の抱える課題が急激に深刻化しており、このままでは10年後の地域の農業やコミュニティが存続しているか極めて不安が大きい。

そこでReRootsでは「ひなびた持続する農村」を目指し、高齢者が生き生きと暮らし、持続して行ける地域づくりを進めている。農業においては法人経営と農業後継者の育成が焦点であり、すでに地域で営農している若手農家が中心となり、法人やベテラン農家と連携して「農村塾」を設立する。これにより地域外から農業研修生を受け入れ、農業技術や経営だけでなく地域の歴史や行事も学び地域に溶け込み、地域へ定着する仕組みを作っていく。

コミュニティにおいては、農村ならではの農業や食文化、稲わら文化、自然風景などの地域資源を活かして地域に人を呼びこみ交流人口の拡大を目指す。さらにそこに住民が主体的に関わることで住民自身が地域の魅力を再発見して地域への愛着や誇りを取り戻し、地域の取り組みとしての動きを作りコミュニティの活性化を図る。

**内容****1. ReRoots ファームを通じた学生の農業への  
関心育成と農村塾作り**

農家の指導を受けながら学生自らが作付けから生育、収穫までを行うことで、農業の魅力と生産技術、さらに農家の抱える課題も学び、若者の農業への関心を高め新規就農者を輩出していく。学生から農業に従事する若者が生まれてくることで、被災農家とともに地域課題について話し合える場を作る。さらに労働力不足を抱える若手農家への農作業支援を行う。これらを通して農家との関係づくりを行い、「農村塾」設立の準備を進めていく。

**2. 食と農を通じたグリーンツーリズム（おも  
もプロジェクト）**

農村である若林区の魅力を最大限に生かしたグリーンツーリズムである。主に仙台中心部の親子連れをターゲットとして、さつまいもの苗植え・収穫・販売体験という年3回のイベントを行い、年間累計100名が参加する。各回、午前は農作業、昼食には地元農家の野菜を使った



料理、午後は豊かな自然に触れてのびのびと遊ぶ企画を行う。その中で住民自身が地域の魅力を再発見し、ReRoots と協力してグリーンツーリズムを作り出す協働の動きを作る。

### 3. わらアートを通じた農村への往来作りと文化継承

わらアートは若林区沿岸部の田んぼから回収した稲わらを用いて5~6m級の恐竜などのオブジェを制作する。9月から12月までの展示期間で毎年約7万人が来場する、地域での一大イベントである。わらワークショップでは、農村の暮らしに密着していた稲わら文化を地域外に発信する。地域住民2名を講師として呼びし、地域外の人に向けてしめ縄飾りの制作を体験する企画である。さらに地域住民からの指導も受けながらしめ縄飾りの商品化にも着手し、文化発信・継承と同時に、地域住民の生きがいづくりにも繋げていく。

## 成果

### 1. ReRoots ファーム

春夏にはトマト等の4品目、秋冬にはチンゲンサイ、ダイコン等の4品目を作付けした。若手農家への労働力支援を農繁期に計19回行った。この中で農家との関係形成も進み、「農村塾」構想の世論づくりにおいて、農業委員会も交えて話し合いを持つなど設立に向けた準備が前進した。



### 2. おいもプロジェクト

第一回42名、第二回37名、第三回11名の計90名が企画に参加した。参加者は若林区の資源や魅力に触れ、食育としても貴重な体験となった。また各回8~10名の地域住民と関わりながら実施し、住民自身が地域の魅力を再発見して主体的に関わろうとする意欲が引き出される状況となっている。



### 3. わらアート

4体のわらアートを制作し、3か月間の展示期間で6万5千人以上の人々が来場した。オープンイベントでは5千人以上が来園し、地元野菜の販売や催し物が行われた。わらワークショップを12月に開催し、10名の参加者と2名の住民が参加した。さらに、しめ縄飾りの制作を住民から教わることで、稲わら文化の技術継承、住民の生きがいづくりに繋がっている。

## 課題・計画

震災から10年以上が経過したが、今後も地域おこし政策を進めていく。農業面においては、引き続き農村塾設立の世論形成や地域の農家、法人との連携を進めていく。農業法人「株仙台あぐりる農園」「平松農園」と連携し、講座や研修内容を来年度内に検討し、2023年の農村塾開講を目指す。コミュニティ面においては、わらアートやおいもプロジェクトなどの農村ツーリズムを、より地域資源の活用とまちづくりに位置づけ、町内会や住民と協働で実施していく。おいもプロジェクトから発展して2020年にオープンした「仙台いも工房りるぽて」や、仙台市沿岸部の跡地利活用事業者とも連携しながら、より地域全体の動きとして形成していく。

## 団体名

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

## 事業名

地域を支える復興支援団体の継続的成長を引き出す  
ファンドレイジング力向上プログラム

## 実施地域

オンラインで実施（対象は宮城県全域の復興支援団体）

● 住所：東京都港区新橋5-7-12ひのき屋ビル7F ● 電話：03-6809-2590

● メール：info@jfra.jp ● HP：https://jfra.jp

## 目的・背景

### ・復興財源の縮小に伴う、財源基盤の不安定化の解消

三菱総合研究所の調査報告書（2019年3月）によると、「（復興支援団体の）受け取る受託事業費、補助金助成金のうち、62%が復興財源由来（金額ベース）」「活動財源全体に占める復興財源の比率が0%ではない団体は全体で65%程度」である。このことから、「復興支援団体の多くが、復興財源が基盤となっている」ものと考えられる。復興財源の大幅縮小は避けられない傾向であり、活動基盤の見直しが急務である。

### ・人材不足の解消

一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンターのアンケート調査（2021年3月）によると、現在の活動における課題として、58.98%が「人員確保の難しさ」を上げており、すべての選択肢の中で最も回答率が高い。人材に係る課題を民間支援団体が抱えること自体は全国的な傾向であるが、被災地においては、全国的な水準よりも深刻化した人口減少・少子高齢化、若者を中心とした人材の流出といった状況がある。

### ・ファンドレイジング力の向上

宮城県内で活動する復興支援団体が、組織・事業・財源の継続的な成長・発展を自らドライブし、今後も現場で必要な支援を継続できるような知識やスキル（＝ファンドレイジング力※）を向上させる。

※ファンドレイジングとは…単なる資金調達にとどまらず、共感をマネジメントしながら組織と財源を成長させる力、そして人々に社会課題の解決に参加してもらうためのプロセスのこと。

## 内容

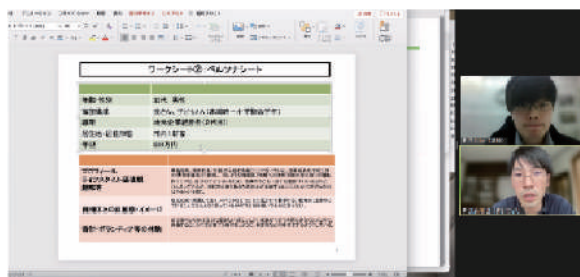
### ・調査

宮城県内で活動する復興支援団体が抱える組織運営上・財務上の課題を明らかにするため、定量的（アンケート）・定性的（インタビュー）な調査を実施する。インタビュー調査は被災地の現状や課題に関心があり、かつ市場調査などの経験がある企業人（プロボノ）や当協会の有資格者を起用する。



### ・ファンドレイジング研修

宮城県の復興支援団体を対象に、全3回のファンドレイジング研修を実施する。目先の資金調達方法だけでなく、組織・事業・財源を継続的に成長させるための知識・スキル・考え方を身に付けることを目標とする。それぞれの内容は次の通り。



- 1 回目【基礎編】 ファンドレイジングの概論から個別スキルまでを体系的に学ぶ | 6 時間
- 2 回目【準備編】 既存支援者を分析し、それぞれから支援を得るためのコミュニケーション戦略を考える | 4 時間 | カスタマイズ研修
- 3 回目【実践編】 SWOT 分析等を活用して自団体を分析し、中期計画を策定する | 4 時間 | カスタマイズ研修

※カスタマイズ研修は、上記の調査の結果を元に、「宮城県内の復興支援団体が抱える共通課題」を分析し、それを解決・改善していくためのスキルを身に付けられるよう、内容をカスタマイズして提供する。

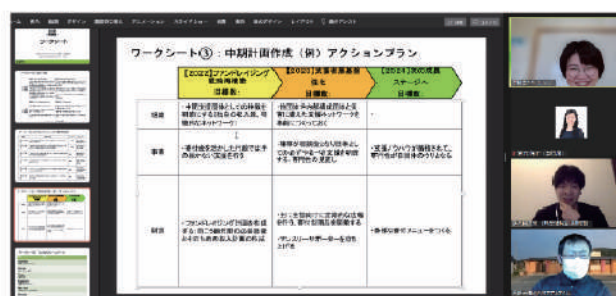
#### ・勉強会

研修参加団体を対象に、研修のフォローアップと資金調達や財源に関する事例共有を目的とした勉強会を開催する。活動団体のネットワーク化、研修で学んだ知識の定着化を図る。ファシリテーションには、東北・被災地の現状や課題に関心のあるプロボノを起用する。

## 成果

- ・調査：アンケート…37 団体 / インタビュー…18 団体 / プロボノ参加者…7 名
- ・研修：回数…全 3 回 / 人数…のべ 54 名 (22 団体)
- ・勉強会：回数…全 3 回 / 人数…のべ 26 名 (11 団体) / プロボノ参加者…7 名

※事業全体の成果測定アンケートは今後実施予定。



#### <受講後アンケートで寄せられた声>

・今回初めてファンドレイジングについて体系的に学ぶことができました。このような機会を提供して頂きまして、ありがとうございました。長時間にわたる講座でしたが、新たな気づきや学びを与えてくれる内容がほとんどでしたので、短く感じるほどでした。特に、戦略的なファンドレイジングの考え方については団体の事業戦略に直結する内容でもあり、非常によい学びとなりました。

・これまで手探りでやってきたことが体系的に理解できたことや、まだ着手できていないことが浮き彫りになったのが良かったです。特に、サイトの見せ方や会員の継続の仕方などさらに増やしていく・継続させていく中でどうしていけばいいかを学びました。

・ものすごく刺激的で楽しかったです！大興奮です。今自団体では組織強化にやっと取り組んでいて、自立的持続的な組織を目指すうえで、マネジメント力の強化が必須だ！というときに、こちらの講座に参加できました。ファンドレイジングが組織の重要な仕事として見える化することは本当に大事ですね。代表の見えない努力になりがちな資金調達やステークホルダーづくりが組織の大事な役割として認識され、チームで取り組む意識につながることは組織を変革して社会を変革していくと思いました！

## 課題・計画

今年度の事業においては、宮城県内の復興支援団体が抱える課題を明らかにし、その課題や現状に合わせてカスタマイズしたファンドレイジングの連続講座・勉強会を開催することができた。今回は「初めてファンドレイジングに触れる」という方が多かったため、ファンドレイジングの基礎や支援者思考を体験し、自団体の強み・弱み等を分析するプロセスが中心だったが、今後は中長期の成長戦略の策定や事業変革についての研修もニーズがあると考えます。また、勉強会を通じて、宮城県内の復興支援団体が「つながる」機会も多く作ることができ、その価値も感じていただけたように思うため、今後も「学び合いの場」を作っていければと考えています。

# 令和3年度宮城県NPO等の絆力を活かした復興支援事業 (マッチング・交流事業) 交流会「人と組織の成長を考える ～地域における連携の可能性～」

## —実施概要—

### 【主旨】

東日本大震災から10年が過ぎ、復興支援から平時の活動へと変容する中、組織内の世代交代や人材確保など新たな課題が見えてきた。次の10年へ向けて継続した活動を行うべく「人と組織の成長とこれから目指す姿」を考える。レクチャーとワークを交えながら、個人と組織の成長を振り返るとともに、地域と団体のこれからの担う人材育成と地域での連携の可能性について意見交換を行う。

### 【プログラム（各回共通）】

- ・個人ワーク①「自身の成長を振り返る」  
これまでの活動を振り返り、成長したこと／理由・きっかけ・場面を考える
- ・レクチャー（講師：川田マキコ氏）
- ・グループワーク① 個人ワークで書き出した自身の成長をグループで共有  
成長を〇〇力として言語化する
- ・個人ワーク②「今後の成長を考える」  
活動をしていくうえで身につけたい力を考える
- ・グループワーク② 個人ワークの内容を一人一言ずつ発表
- ・全体ワーク「地域連携の可能性を探る」  
交流会を通じて見えてきた強みや成長について討論する

### 【レクチャー概要】

講師：川田マキコ氏（マジカル・ステップ代表 キャリアコンサルタント）

団体でのこれまでの活動場面から自己の成長に気づき、言語化し、共有するためのヒントとして、以下3点のレクチャーを行った。1点目として、「スキル」とは訓練や学習によって培われる獲得可能な「技能や能力」であること。また、技能や能力をより高めることが「スキルアップ」であり、「成長」と言い換えることができる。2点目として、「スタンス」は「スキル」の土台となり、物事に直面した際取る立場や姿勢、価値観などを指す。「スキル」の分類として、厚生労働省が提唱する「ポータブルスキル：業種や職種が変わっても通用する、持ち出し可能な能力」の他、「テクニカルスキル：業種や職種による専門性が高く、特定領域で発揮される専門的な知識や技術」について解説した。3点目として、ポータブルスキルには、課題を明らかにする、計画を立てる、実行する等の「仕事の仕方」や組織内外や部下への対人マネジメント等の「人との関わり方」が含まれる。



### 【石巻地域交流会】

日 時：令和4年1月26日（水）13：30～16：00  
会 場：マルホンまきあーとテラス 2階大研修室（宮城県石巻市開成 1-8）および Zoom  
対 象：石巻地域の復興・被災者支援活動を行う NPO 等、企業、行政、関心のある個人  
参加費：無料  
後 援：石巻市  
連絡先：特定非営利活動法人にじいるクレヨン

石巻地域交流会は終始和やかな雰囲気で開催された。新型コロナウイルス感染症対策のため距離をとってのグループワークとなったが、もっと膝を突き合わせてコミュニケーションをとりたかったという声も上がるほど対話の場は盛り上がりを見せた。

今回の石巻会場の参加者は就労支援や子ども・子育て支援、まちづくりなど様々なジャンルの団体で、年齢も 20 代から 60 代までと幅広い層の参加があった。NPO 活動を応援したい企業からも参加があった。

多彩なメンバーによるグループ分けができたことで、活発な話し合いの時間が生まれた。

また、会場では散会後にあえて余韻タイムを設けたことでゆったりと交流する時間が生まれ、参加者が楽しそうに名刺交換をされていたのが印象的であった。

今回の交流会の成果としては各組織だけでなく個人の強みが見える化されたことと、各々つながりが深まったことによって、今後地域の中に頼れる人がいるという安心感が生まれたように感じた。

今回参加がかなわなかった人の中にも交流会に参加してほしかったと思う人物が石巻には多い。交流会を通して、石巻の協働のますますの可能性が垣間見えて期待に胸が膨らんでいる。  
(特定非営利活動法人にじいるクレヨン理事長 柴田滋紀)

### 【気仙沼・南三陸地域交流会】

日 時：令和4年1月31日（月）13：30～16：00  
会 場：宮城県気仙沼合同庁舎 1階大会議室（宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6）および Zoom  
対 象：気仙沼・南三陸地域の復興・被災者支援活動を行う NPO 等、企業、行政、関心のある個人  
参加費：無料  
後 援：気仙沼市  
連絡先：一般社団法人気仙沼まちづくり支援センター

東日本大震災から 11 年。団体それぞれが被災地の抱える課題に向き合い、解決のために奔走してきた。しかし、その活動を振り返る余裕もなく成長を実感することもないまま今に至る例が少なくなかったが、今回は講師の川田マキコ氏のレクチャーとワークを通して、参加者それぞれが活動の歩みを振り返る機会となるとともに、参加者同士の視点により、身についたスキル（成長）が確認できることとなった。

また、各自の持つスキルを 3つ（スタンス/ポータブルスキル/テクニカルスキル）に分類・マッピングしたことで、それぞれの特性が明確となった。さらに、ワークの過程で団体ごとの課題の違いや悩みを共有したことで、互いの理解が深まり、新たな協力・連携の可能性が垣間見えた。

新型コロナウイルスの影響で交流の機会が激減する中で、活動分野が異なる NPO 間の情報共有の場や、まちづくり協議会等の地縁組織との交流の機会も少なくなっているが、このような交流の機会を継続的に行うことが、今後の活動継続に必要な要素であると改めて感じた。

人材や活動資金の確保がますます厳しくなっていく状況下で、NPO・地縁組織等団体の垣根を超えた連携模索の機会として有意義な会となった。

(一般社団法人気仙沼まちづくり支援センター代表 塚本卓)



発行日 令和4年3月

企画・編集 特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる  
特定非営利活動法人地星社  
特定非営利活動法人にじいろクレヨン  
一般社団法人気仙沼まちづくり支援センター

発行 宮城県環境生活部共同参画社会推進課  
〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8番1号  
電話 022-211-2576